

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【中学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立中学校生徒の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

**参考：「とちぎっ子学習状況調査」について****1 目的**

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

**2 調査期日・調査対象** 令和5年4月18日（火） 第2学年**3 調査内容****(1) 教科に関する調査**

- ① 調査教科 国語・社会・数学・理科・英語
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容

**(2) 質問紙調査**

- ① 生徒質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問紙調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

**4 本市の参加状況**

- (1) 学校数 宇都宮市立中学校 25校（25校中）
- (2) 生徒数 国語 3,872人 社会 3,868人 数学 3,859人 理科 3,861人 英語 3,855人

**5 留意事項****(1) 調査結果について**

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

**(2) 教科に関する調査について**

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリー別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
  - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。  
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
  - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

**(3) 質問紙調査について**

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

**(4) 用語について**

「カテゴリー別平均正答率」等の中で、学習指導要領において領域による内容構成を行っていない教科についても、内容のまとまりなどを「領域等」として表記した。

# 1 中学校第2学年 国語

## 平均正答率

(%)

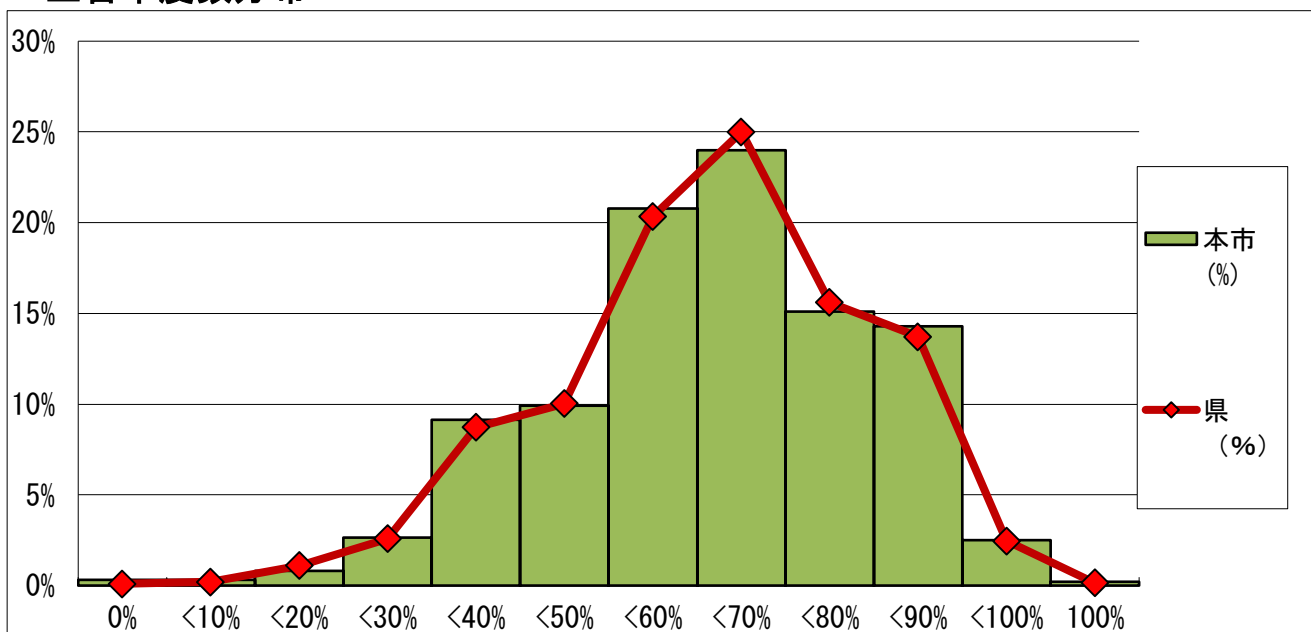
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	61.1	61.4	△0.3

## カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.5	76.7	△1.2
	我が国の言語文化に関する事項	14.3	11.2	3.1
	話すこと・聞くこと	61.6	60.9	0.7
	書くこと	60.4	62.9	△2.5
	読むこと	51.0	49.9	1.1
観点別	知識・技能	69.4	70.1	△0.7
	思考・判断・表現	56.0	55.9	0.1

## 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 $\Delta 1.2$ ポイント)

- 文を単語に分ける設問の正答率は73.7%で、県平均を2.3ポイント下回る。単語の性質や類別を理解することに課題が見られる。

### 我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 3.1 ポイント)

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く設問の正答率は県平均を3.1ポイント上回っているものの、14.3%と低い状況である。歴史的仮名遣いを読むことに課題が見られる。

### 話すこと・聞くこと (県平均との差 0.7 ポイント)

- 話し合いでの司会者の工夫を聞き取る設問の正答率は75.7%で、県平均を1.3ポイント上回る。話し合いの進め方の工夫を捉えることに良好な状況が見られる。

### 書くこと (県平均との差 $\Delta 2.5$ ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くこと平均正答率は63.6%で、県平均を2.3ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを明確にして書く設問の正答率は53.8%で、県平均を2.9ポイント下回る。自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認し、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。

### 読むこと (県平均との差 1.1 ポイント)

- 物語の内容をまとめた文の空欄に当てはまる言葉を書く設問の正答率は62.8%で、県平均を1.9ポイント上回る。文章の展開に即して内容を捉えて読むことに、良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 言葉の特徴や使い方に関する事項

単語がその性質から自立語と付属語とに大別されることや、いくつかの品詞に分類されることなどについて理解する必要がある、それぞれの単語のもつ文法的な役割とともに、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかなどを理解することが求められる。第1学年での文法との出会いの場面で、丁寧に指導することはもちろん、意図的に復習の機会を設けるなどして、単語と文節の違いを説明させたり、文の中で、単語や文節に区切る練習を取り入れたりすることが有効である。

### 書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書き、二段落目に自分の考えとその理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第1学年の「書くこと」の指導事項には、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することや、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが示されている。複数の資料を比較し、調べたことを基に考えを形成して書く活動などを通して、段落の役割を踏まえて構成や展開を考慮する学習や、自分の考えの根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用しながら考えを書く学習が必要である。

## 2 中学校第2学年 社会

### 平均正答率

(%)

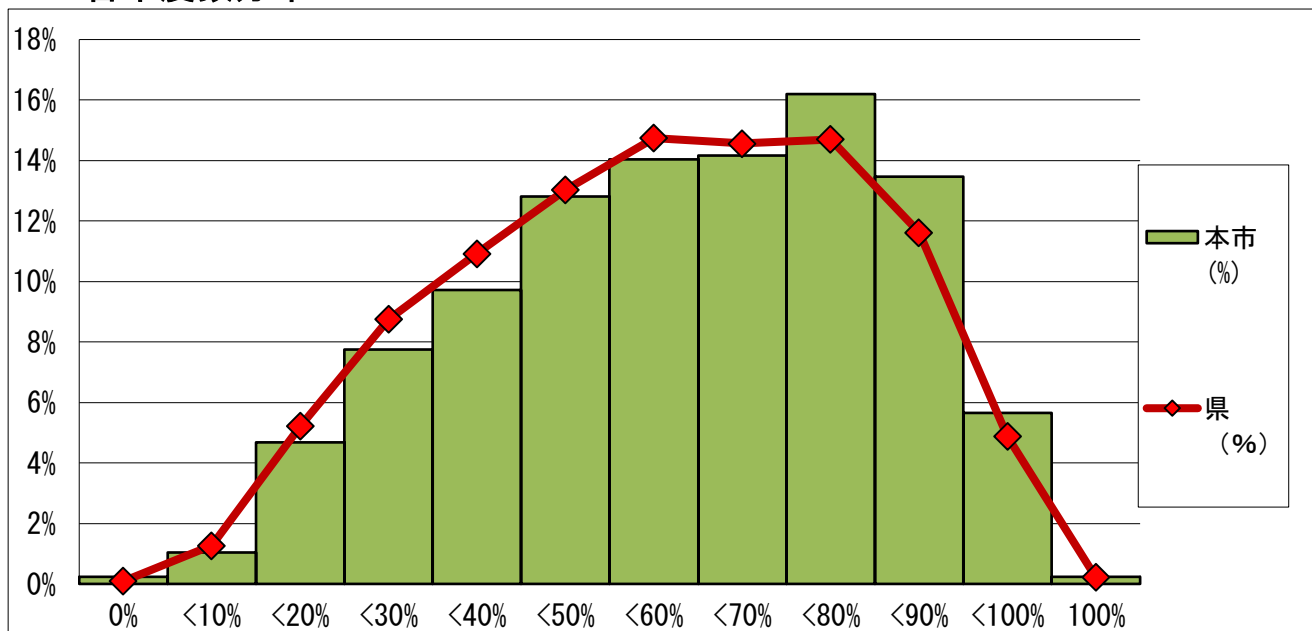
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差	a - b
教科全体	57.7	55.9	1.8	

### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差	a - b
領域等別	地理	60.1	58.1	2.0	
	歴史	55.1	53.5	1.6	
観点別	知識・技能	61.1	59.3	1.8	
	思考・判断・表現	46.0	44.3	1.7	

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 地理的分野（県平均との差 2.0ポイント）

- 竹島や北方領土、尖閣諸島、沖ノ鳥島について述べた文章から正しいものを選択する設問の正答率は66.1%で、県の平均を3.5ポイント上回る。日本の固有の領土と領域をめぐる問題に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着について良好な状況が見られる。
- イラストに示されたフィヨルドが見られる場所を地図中に示された複数の地域から正しい地域を選択する設問の正答率は68.0%で、県の平均を3.5ポイント上回る。ヨーロッパ州に見られる特徴的な自然条件に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着について良好な状況が見られる。
- アフリカ州のモノカルチャー経済の課題について、複数の資料から読み取った情報を関連付けて考察し表現する設問の正答率は、18.8%であり、県平均を1.3ポイント下回る。同一の事象に関する異なる資料（グラフと文章など）の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る技能に課題が見られる。

### 歴史的分野（県平均との差 1.6ポイント）

- 前方後円墳の分布図をもとに、大和朝廷と前方後円墳の関係性を読み取る設問の正答率は79.4%で、県平均を2.9ポイント上回る。日本列島における国家形成についての知識の定着と活用に良好な状況が見られる。
- 平城京から平安京に遷都した理由を文章で答える設問の正答率は32.6%、元寇（蒙古襲来）が鎌倉幕府と御家人の関係に与えた影響について文章で答える設問の正答率は26.7%であり、資料から読み取った情報をもとに考察したり表現したりするなど、知識の活用について課題が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 地理的分野

授業では、単元を貫く具体的な学習課題を設定し、見通しを持って課題を追究する過程を通して、地形図や主題図、図表やグラフなどの様々な資料から、課題の解決に必要な情報を読み取りながら、知識と技能を一体的に身に付けたり、地理的な見方・考え方を働かせて考察したりして表現する学習活動を充実させ、個別の知識の統合を促し、単元の学習内容について、概念的に理解することができるように指導することが大切である。

### 歴史的分野

授業では、生徒が推移、比較、相互の関連などに着目して、社会の変化の様子について捉え、理解することができるように、歴史的な見方・考え方を視野に入れた適切な問いと資料を提示し、思考力・表現力・判断力等を育成する学習活動の充実を図ることが大切である。

### 3 中学校第2学年 数学

#### 平均正答率

(%)

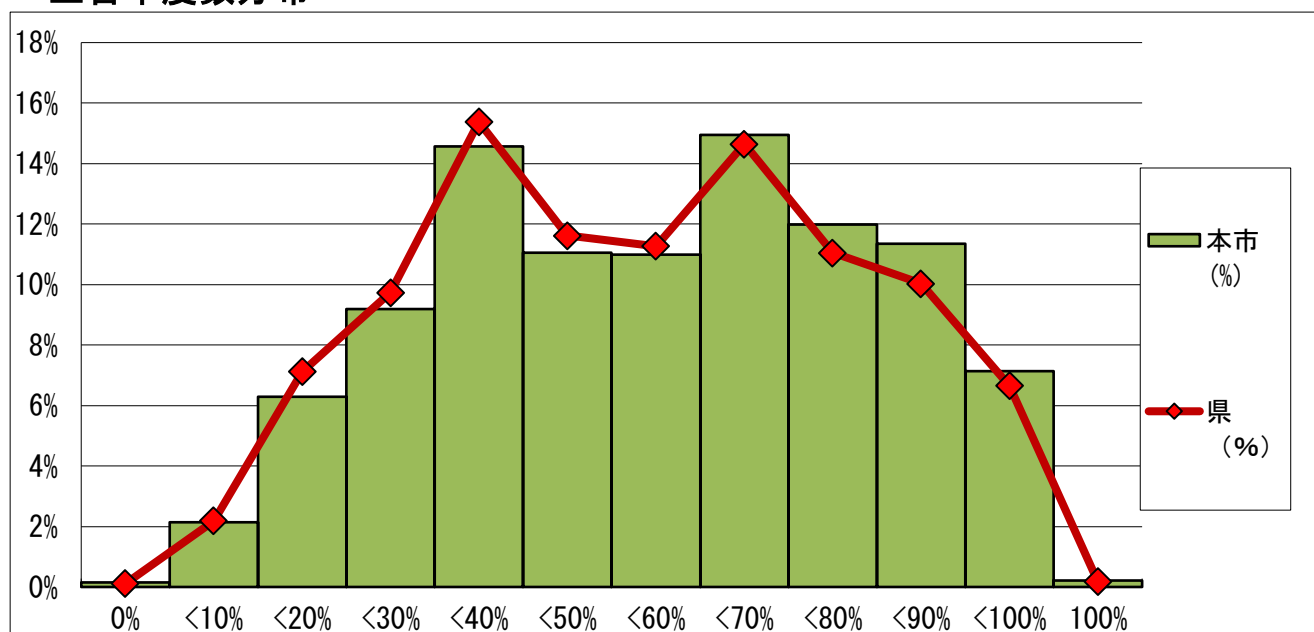
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	54.8	53.2	1.6

#### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と式	58.6	57.2	1.4
	図形	52.6	51.1	1.5
	関数	48.2	46.8	1.4
	データの活用	56.1	54.1	2.0
観点別	知識・技能	60.2	58.6	1.6
	思考・判断・表現	42.3	40.9	1.4

#### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 数と式 (県平均との差 1.4ポイント)

- 与えられた文章題に対して、適切な1次方程式を立式する設問の平均正答率は39.2%であり、県平均を6.7ポイント上回る。問題を理解し、未知数を $x$ として一次方程式を立式することに良好な状況が見られる。
- 正の数と負の数の大小関係について、正しい説明を選択する設問の平均正答率は13.5%であり、県平均を0.3ポイント下回る。四則計算の結果の特徴を的確に捉え、正負の数の意味を理解した上で大小関係を判断することに課題が見られる。

### 図形 (県平均との差 1.5ポイント)

- 三角形の2つの頂点から等距離にある点を一つの辺上に作図する設問の平均正答率は47.3%で、県平均を4.7ポイント上回る。垂直二等分線の性質を理解し、作図することに良好な状況が見られる。

### 関数 (県平均との差 1.4ポイント)

- 比例の式からグラフを作図する設問の平均正答率は48.5%であり、県平均を3.0ポイント上回る。符号や比例定数を理解し、適切に作図することに良好な状況が見られる。
- $x$ と $y$ の関係を表す複数の表から、 $y$ が $x$ に比例している表を選択する設問の平均正答率は82.5%であり、県平均を0.5ポイント下回る。関数の考え方で比例を捉え直し、一定の値である比例定数を見いだすことなどに課題が見られる。

### データの活用 (県平均との差 2.0ポイント)

- 体力テストの記録をもとに、ある種目の度数分布表から特定の階級の累積度数を求める設問の平均正答率は60.9%であり、県平均を3.1ポイント上回る。累積度数の考え方を理解し、度数分布表から、累積度数を求めることに良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### 数と式

中学校数学では、小学校算数科の指導を受けて、数の範囲を正の数から負の数にまで拡張し、数を統一的に見られるようにして数についての理解を深め、その四則計算ができるようにすることが大切である。また、具体的な場面で、正の数と負の数を用いて表したり処理したりして活用できるようにする活動を取り入れるなど、指導を工夫したい。数の大小関係を比較する際には、数の念頭操作に固執せず、数直線を活用して視覚的に理解させるなど、生徒の実態に応じた指導が求められる。

### 関数

根拠をもって資料の傾向を捉え、その理由を数学的に説明できるようにするためには、資料の特徴について考え、表現し合う学習を取り入れることが重要である。その際、根拠となり得る用語の候補を事前に生徒へ提示する、感覚的な発言については、複数の生徒の発言をつないで用語を用いた表現に高めるなど、数学的に望ましい表現の仕方を生徒が認識できるように指導を工夫することが大切である。また、小学校算数科で学習した比例や反比例を考察するときは、変域が負の数を含む有理数まで拡張されることを踏まえ、既習事項と関連付けながら学習を進める工夫が必要である。

#### 4 中学校第2学年 理科

##### 平均正答率

(%)

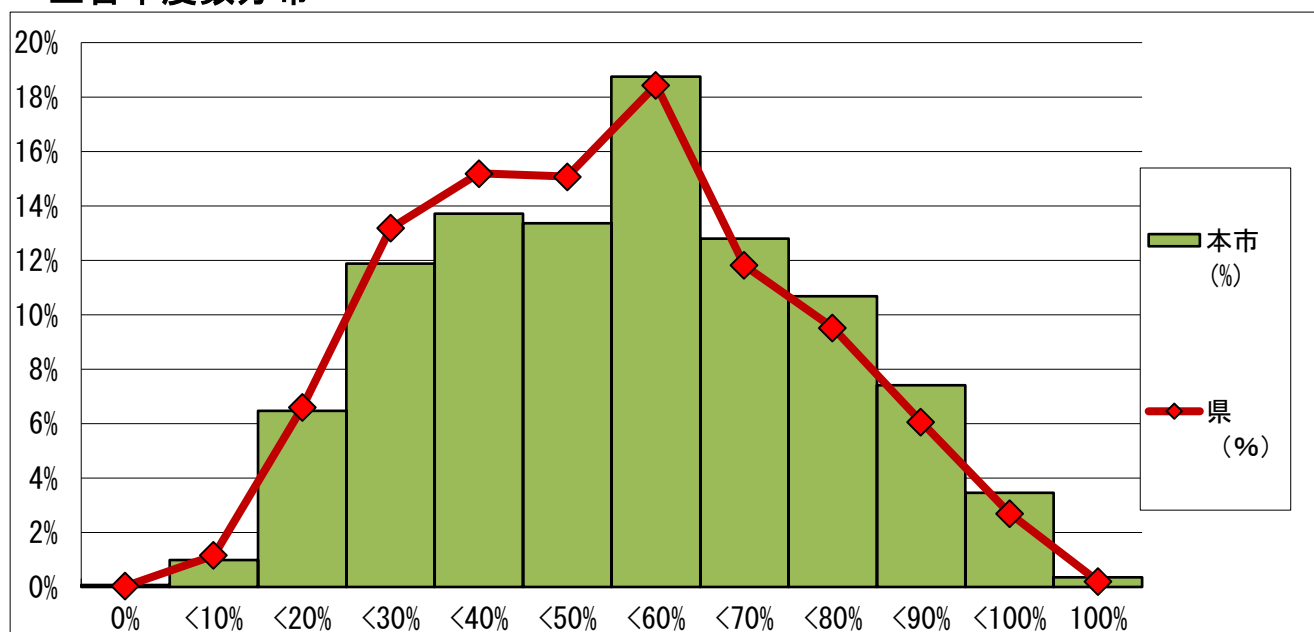
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	51.2	49.0	2.2

##### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	エネルギー	42.8	40.8	2.0
	粒子	54.2	52.0	2.2
	生命	66.4	63.8	2.6
	地球	36.2	34.5	1.7
観点別	知識・技能	55.2	53.3	1.9
	思考・判断・表現	43.5	41.0	2.5

##### 正答率度数分布





## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### エネルギー (県平均との差 2.0ポイント)

- スクリーンに映っている像を選ぶことについての設問の正答率は 55.1%で、県平均を 3.3ポイント上回る。凸レンズの性質の理解について良好な状況が見られる。
- 2つのばねの長さが等しくなるときのばねに加えた力を求めることについての設問の正答率は 18.5%で、県平均を 0.1ポイント下回る。物体の変形についての理解に課題が見られる。

### 粒子 (県平均との差 2.2ポイント)

- 湯をかけたあとのエタノールの粒子モデルを選ぶことについての設問の正答率は 62.8%で、県平均を 3.5ポイント上回る。状態変化と粒子のモデルについての理解に良好な状況が見られる。

### 生命 (県平均との差 2.6ポイント)

- 植物の観察結果から考察を記述することについての設問の正答率は 63.7%で、県平均を 3.2ポイント上回る。結果から考察するなど、思考・判断することに良好な状況が見られる。
- 植物の体の部分に着目し、分類を選ぶことについての設問の正答率は 46.3%で、県平均を 4.9ポイント上回る。単子葉類と双子葉類の見分け方とアブラナの分類についての理解に良好な状況が見られる。

### 地球 (県平均との差 1.7ポイント)

- 示準化石の名称を答えることについての設問の正答率は 40.6%で、県平均を 2.4ポイント上回る。地層ができた時代の推測の手掛かりとなる化石の名称についての理解に良好な状況が見られる。

## 指導の工夫・改善

### エネルギー

力の大きさとばねののびの学習では、ばねにおもりをつるしてばねののびを測定する実験を行い、測定結果から力の大きさとばねののびが比例することを見だし、フックの法則について学習をする。長さの異なる2つのばねが同じ長さになるために加える力を考えることについては、生徒が授業の中で疑問を持ちにくい課題であるため、探究的に学習に取り組めるよう教師のコーディネートが望まれる。

### 地球

地球と宇宙の学習では、再現したり実験したりすることが困難な事物・現象を扱うことが多い。そのため、自然の事物・現象を科学的に探究する活動では、観察したり資料を調べたりして情報を収集し、そこから考察することなどに重点が置かれることになる。その際、ICT機器やモデルの活用なども考えられ、直接体験やそれらに準ずる学習活動も含めて、科学的に探究する授業を展開することが望まれる。

## 5 中学校第2学年 英語

### 平均正答率

(%)

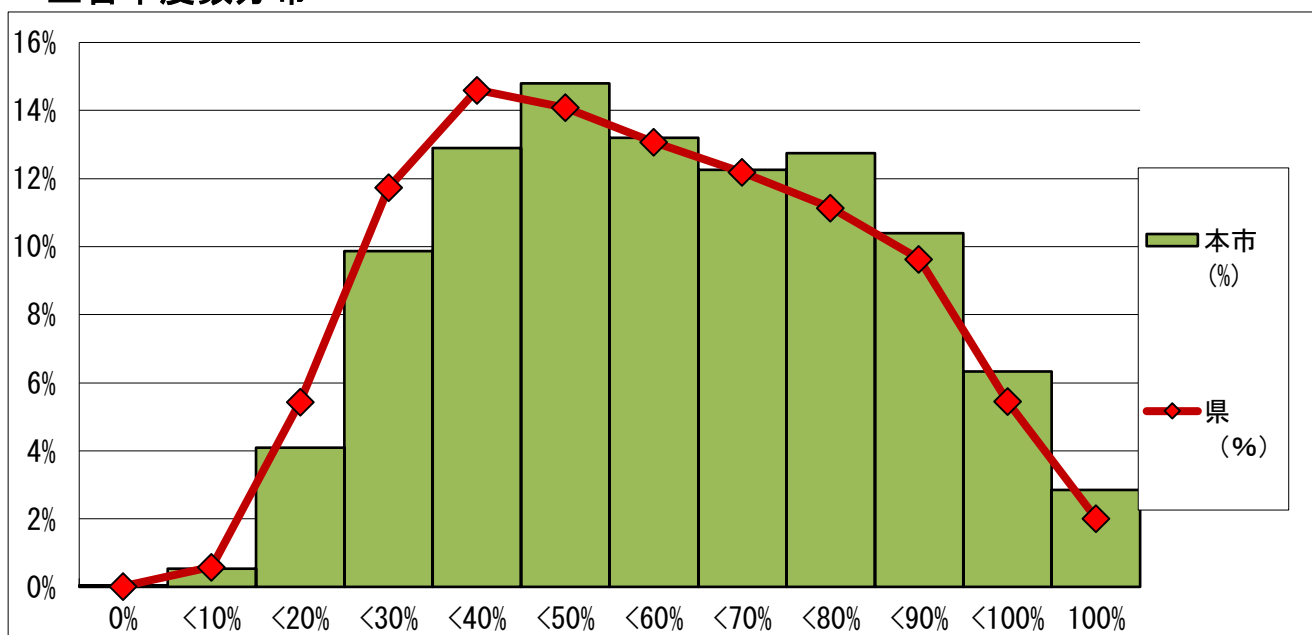
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	56.9	54.2	2.7

### カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	聞くこと	62.0	59.7	2.3
	読むこと	60.6	58.0	2.6
	書くこと	53.1	50.1	3.0
観点別	知識・技能	66.0	63.0	3.0
	思考・判断・表現	44.1	41.7	2.4

### 正答率度数分布



## 傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

### 聞くこと (県平均との差 2.3ポイント)

- 絵を適切に表している英文を聞き取る設問の正答率は88.8%で、県平均を2.8ポイント上回る。また、対話の内容を聞き取り、適切に応答する設問の正答率は70.5%で、県平均を3.8ポイント上回る。聞き取った英語の内容についての問いかけに対して適切に応答することに良好な状況が見られる。

### 読むこと (県平均との差 2.6ポイント)

- 英文から必要な情報を読み取り、適切な表を選ぶ設問の正答率は70.3%で、県平均を3.1ポイント上回り、英文を読んで、ふさわしいタイトルを選ぶ設問の正答率は62.9%で、県平均を3.2ポイント上回る。英文を読み、必要な情報や概要を読み取ることに良好な状況が見られる。

### 書くこと (県平均との差 3.0ポイント)

- 対話が成り立つように、英文を正しい語順で書く設問の正答率は43.4%で、県平均を10.0ポイント上回り、メモの情報をもとに人を紹介する英文を書く設問の正答率は51.8%で、県平均を4.0ポイント上回る。英文を正しい語順で書くことや、情報に基づいて英文を書くことに良好な状況が見られる。
- 対話の流れに合った英文を書く設問の正答率は17.2%で、県平均を0.1%下回り、無解答率は45.6%となっている。文脈を捉えて、必要な表現を判断し書くことができるよう、表現を使用する機会を繰り返し作るとともに、書くことへの意欲を高めていく必要がある。

## 指導の工夫・改善

### 聞くこと

聞くことの指導にあたっては、場面設定等を工夫しながら、聞くことへの意欲を高める工夫や、状況を確認し、聞き取るポイント等を示すことが有効である。また、問いかけに対して適切に応答する力をさらに高めるため、聞いたことをもとに、話すことや書くことと結び付けるなど技能統合的な言語活動に継続的に取り組ませることで、聞いたことに対し適切な応答を自分で考えさせる指導が必要である。

### 読むこと

読むことの指導にあたっては、まとまりのある英文を読んで、必要な情報や要点、概要を適切に読み取る力をさらに高めるため、手がかりとなる語句や表現をヒントとして与えたり、事前に内容についてやりとりしたりするなどの工夫が必要である。また、生徒の既有知識や経験を英文の内容と関連付けるなど、その内容を自分に身近なこととして捉えさせ、読むことに意義をもたせる指導が有効である。

### 書くこと

書くことの指導にあたっては、書く前に意見や考えのやりとりを行ったり、書く内容のアイデアを整理する時間を設けたりして、自分の考え等をまとめ英文で表現することへつなげることが必要である。また、何のために、誰に向けて書くなど、目的や相手を明確にすることで、書くことへの意欲を高めていくことも有効である。

## 6 中学校質問紙調査

### 【生徒質問紙調査】

#### 調査結果（全 113 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と3ポイント以上差があり本市生徒の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	89.7%	△0.6
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	67.4%	△2.2
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	78.3%	3.7
4	疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。	64.4%	0.0
5	学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。	91.1%	3.6
6	本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。	69.4%	0.7
7	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	92.8%	△2.2
8	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	82.2%	△4.2
9	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	70.0%	△4.3
10	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	76.5%	△0.9
11	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	43.7%	0.5
12	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない。	33.8%	△2.1
13	家で、学校の授業の復習をしている。	66.4%	△4.0
14	家で、学校の授業の予習をしている。	39.6%	2.3
15	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	62.8%	△0.8
16	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	57.6%	1.6
17	家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。	63.7%	△1.3
18	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※2時間以上	26.5%	△1.4
19	自分には、よいところがあると思う。	76.1%	0.4
20	自分はクラスの人役に立っていると思う。	60.5%	△0.5
21	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。	62.4%	△0.4
22	自分の行動や発言に自信をもっている。	52.5%	0.3
23	地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある。	73.6%	2.6
24	先生は学習のことについてほめてくれる。	79.9%	0.6
25	家的人是、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	80.0%	2.0
26	家の人と将来のことについて話すことがある。	71.1%	4.3
27	家の人と学習について話をしている。	82.9%	5.3
28	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	31.5%	0.3
29	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	55.6%	△0.8

## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 学ぶ意欲・授業について (No.1～No.12)

- No. 3～5の肯定的な回答の割合は県平均と同程度または上回っている。生徒の知的好奇心を大切にした指導や、学習への有用感を高める指導が工夫されていると考えられる。
- No. 6の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。学校図書館を活用した学習やコンピュータを活用した学習を取り入れ、情報活用能力を育む指導が推進されていると考えられる。
- No. 7～9の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。授業の導入時に本時の授業で学ぶことを生徒と共有し見通しをもたせるとともに、生徒自身が学びを改めて確認する機会が必要である。
- No. 11, 12の肯定的な回答の割合は50%未満に留まっているとともに、No. 12については県平均下回っている。自分の考えを話したり書いたりして表現する力を育む指導を工夫することが必要である。

### 家庭学習について (No.13～No.18)

- No. 14, 16の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭学習に主体的に取り組む態度を育むための指導が推進されていると考えられる。

### 自分自身のこと・家の人や先生について (No.19～No.27)

- No. 23の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられていると考えられる。
- No. 25～27の肯定的な回答の割合は県平均より高く、上回り方が大きい。キャリアに関する指導や学習の充実に向けた指導が、家庭と連携・協力しながら進められていると考えられる。

### 毎日の生活について (No.28, 29)

- No. 29の携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日に1時間未満の生徒の割合は県平均を下回っている。「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組等により、節度のある使用についての指導の工夫が必要であると考えられる。

## 【学校質問紙調査】

### 調査結果（全 65 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題の活用に関する質問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No.9～14の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

#### 〈生徒の様子〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
1	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	100%	3.8
2	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	100%	3.8
3	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	84.0%	△7.1
4	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	92.0%	6.0

#### 〈学校の取組〉

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	生徒の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	96.0%	△1.4
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	80.0%	△9.8
7	授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	92.0%	4.7
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	96.0%	△3.4
9	宿題の出し方について、教科間で情報交換をしている。	52.0%	△19.3
10	生徒の実態を把握して、宿題を出している。	56.0%	△19.2
11	やり方を生徒に十分説明して、宿題を出している。	64.0%	△11.2
12	宿題について、評価・点検の仕方を教職員間で情報交換している。	68.0%	△3.3
13	生徒が自主的に取り組むような宿題を出している。	80.0%	9.3
14	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	76.0%	△2.4
15	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	92.0%	6.0
16	教職員は教科の枠にとらわれず、指導案検討を行ったり、授業研究会で発言したりしている。	80.0%	△0.9
17	全体で行う研修と小集団で行う研修を効果的に組み合わせている。	92.0%	△0.4
18	本調査実施後、調査対象学年の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	48.0%	△24.6
19	本調査実施後、調査対象学年の1学年下の生徒に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	40.0%	△22.4
20	調査結果の分析を全教職員で行っている。	76.0%	△13.2

## 傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの 下線部…「結果概要」との主な関連

### 生徒の様子 (No.1～4)

- No. 1～2の肯定的な回答の割合は100%であり、特に高い。話し方や聞き方を含む学習規律の徹底について、学校全体での組織的な指導が推進されていると考えられる。

### 授業における学習指導 (No.5～8)

- No. 7の肯定的な回答の割合は90%以上であり、県平均を上回っている。主体的に問題発見・解決に取り組む態度の育成が図られていると考えられる。
- No. 8の肯定的な回答の割合は90%以上であり、特に高い。指導と評価の一体化を念頭においた授業づくりが意識されていると考えられる。
- No. 6の肯定的な回答の割合は県平均を下回っている。自分の考えを整理し書いてまとめることで、表現する力を育む指導の充実を図ることが必要である。

### 家庭学習の指導 (No.9～14)

- No. 9～11の肯定的な回答の割合は県平均を10ポイント以上下回っており、下回り方が大きい。宿題の意義や取り組み方などについて生徒に対して理解を図るとともに、宿題や課題について教科間で共有し、内容について確認するなど、生徒の負担に配慮していくことが必要になると考えられる。

### 校内研修の充実 (No.15～17)

- No. 15の肯定的な回答の割合は県平均より5ポイント以上上回っている。教員同士が互いに授業を見せ合う取組が概ね定着していると考えられる。

### 学力調査の活用 (No.18～20)

- No. 18～20の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。